

奥羽大学報



本学の日本庭園に棲む鯉

目次

奥羽大学の理念・目的 / オープンキャンパス	
歯学部学生が郡山市バドミントン大会で入賞	
第56回全日本歯科学生総合体育大会 結果報告	1
TOEIC高得点者インタビュー 歯学部3年生 横ここなさん	2
歯学部教育支援者懇談会の開催 / 薬学部教育支援者懇談会の開催	
学長裁量経費による論文発表支援	
大学院歯学研究科研究経過発表会の開催	
薬学部卒業研究中間発表会	3
薬学部卒業研究中間発表会における優秀発表賞	
薬剤師育成および人材確保に関する関連団体・医療機関との包括連携協定	
第80回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップへの参加	
科研費使用についての説明会の開催	4
第1回SD研修会の開催 / 第4回大学院特別研修セミナーの開催	
県中地城市町村歯科保健強化推進研修会での鈴木史彦教授による講演	5
猪苗代町教育委員会主催研修会での佐藤歩講師による講義	
小林初夫図書館長が南相馬市で講演	
日本薬史学会の船山信次会長が来館	6
奥羽大now	7
本多真史講師の記事が「朝日新聞」に掲載	
玉井利代子教授らの記事が「日本歯科新聞」「福島民報」に掲載	
ちよっと寄り道	8
キャンパスの風景 / 文学部同窓会からのお知らせ	9
附属病院 自衛消防訓練 / 歯学部教授紹介	10
同窓生のひろば	11
人事	12

178

通算 第303号

奥羽大学の理念・目的

理 念

高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな人材を育成する。

目 的

奥羽大学は、教育基本法（昭和22年法律第25号）並びに学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき、広く知識を養うと共に、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を育成し、国民の福祉と文化の発展に寄与することとし各学部はその目的は、次の各号のとおりとする。

1. 歯学部は、高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師を養成する
2. 薬学部は、高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな薬剤師を養成する

オープンキャンパス

本学オープンキャンパスは、オンライン開催も含め3回にわたり開催され（7月・8月）、県内外の高校生ら約130名が参加した。清浦有祐学長が教育方針などを語り、瀬川洋歯学部長および押尾茂薬学部長がそれぞれ学部の特徴を紹介した。歯学部ではシミュレーションロボットや人形を使用し、ショック症状のある患者への救命措置体験などが行われた。参加者は、自動体外式除細動器（AED）の使用法や胸骨圧迫の手順を教員から学んだ。薬学部では調剤体験や科学実験などが展開された。また、参加された高校生や保護者の方から質問を受け付けるコーナーが設けられ、本学の教員や在学生が、学業を中心とする様々な相談に応じた。

これらからもオープンキャンパスを通じて、本学の魅力を発信していく予定である。



学内見学の様子



参加者に説明する本学生

歯学部学生が郡山市バドミントン大会で入賞

歯学部1年生の戸谷悠人さんが、安積総合学習センター体育館で9月16日(月)に開催された郡山市バドミントン協会主催の第18回秋のバドミントン大会男子ダブルスで第3位に入賞した。

戸谷さんは勉強とクラブ活動の両立、すなわち文武両道を目指した学生生活を送っている。



左から、清浦有祐学長、戸谷悠人さん、川鍋仁教授

第56回全日本歯科学生総合体育大会
結果報告

スキー部門(北海道小樽市 朝里川温泉スキー場)
3月22日(金)～24日(日)

4年 上野歩夢 男子回転 第5位、男子PGS 第4位、男子大回転 第6位、男子団体総合 第7位、男子個人 総合第3位(総合順位19校中11位)

ゴルフ部門(軽井沢72ゴルフ会場)

7月31日(水)～8月1日(木)

4年 佐野太陽 113名中6位入賞(グロス82)

剣道部門(千葉県松戸市運動公園体育館)

8月3日(土)～4日(日)

個人戦女子

1年 遠藤実穂 優勝、2年 油井桃香 準優勝

個人戦男子

2年 渡邊雄一郎 準優勝

公式団体リーグ戦 総合3位

空手道部門(奥羽大学武道館)

8月4日(日)

形の部

5年 川野新太 準優勝、6年 加藤祥真 三位、

5年 鎌田明瑠 三位

組手新人戦の部

2年 岩井 聖 三位

組手個人戦の部

5年 川野新太 準優勝、1年 堀 圭佑 敢闘賞

組手団体戦の部 三位

バスケットボール部門(グリーンアリーナ神戸)

8月6日(火)～8日(木)

参加部員9名

対東京歯科大学(36対72)、対神奈川歯科大学(58対73)、対昭和大学(63対72)

アーチェリー部門(つま恋リゾート彩の郷アーチェリー場)

8月1日(木)～5日(月)

男子個人

4年 山本和希 10位入賞

新人戦男子個人

1年 笹本幸靖 優勝



剣道部門



アーチェリー部門



空手道部門

TOEIC高得点者インタビュー 歯学部3年生 榎ここなさん

榎さんは、初めてのTOEIC受験(2022年7月)で855点を取得しました。これは医・薬学系学部生の平均489点を大きく上回るスコアです。英語をマスターする環境に恵まれていたわけでもなく、日々の隙間時間を活用して語彙力を強化するなど、地道な努力を重ねて英語力を高めてきた榎さんに話を伺いました。



——英語を学んだきっかけは何ですか。

「初めて英語に触れたのは、小学1年の時ですね。週に1回、家族が英会話教室に通わせてくれたんです。高校3年まで楽しく続けることができました。」

——海外生活や留学の経験はありますか。

「海外生活とか留学とかの経験はなく、ハワイ旅行に行った程度でした。ハンバーガーを注文した時に、かなり緊張したことを覚えています。実家(徳島県)は、外国人を見かけることがあまりないような土地柄でした。両親は日本人です」

し、英語に触れる環境としては普通の日本人と同じ感じで、何も特別なことはなかったです。」

——実践されてきた学習方法について教えていただけますか。

「中学では受験英語が中心だったこともあり、主に文法を勉強していました。リスニング力を強化するために、ネイティブの英語をとにかく聴き込みましたね。特に意味のまとまりを意識しました。文法をしっかりと学んだことが、意味のまとまりを把握することに役に立ったと思っています。中学・高校時代は、語彙力強化として休み時間に単語帳を開いて、毎日3ページ覚えることを目標にしていました。隙間時間を活用できたことが本当に役に立ったと思います。あとは、英語に触れる機会をできるだけ多くしたことです。英語ディベート部に所属して、弁論大会に出場したり、英検に挑戦したり。今でも、ちょっとした時間にYouTubeを眺めたり、洋楽を聞いたりします。」

——今後、歯科医師としてのキャリアに英語力をどのように活用していきたいですか。

「歯科医療分野の最先端の研究を自分の治療に活かすためにも、英語力は不可欠だと思っています。将来、外国人の患者さんを受け入れることができるクリニックを経営したいです。言葉の壁による不安を少しでも和らげることができたらと考えています。」

英語の必要性を認識しつつも、まとまった時間を確保することが難しい医療系の学生にとって、槇さんの隙間時間を有効に活用する取り組みは大いに参考になるのではないのでしょうか。

歯学部教育支援者懇談会の開催

10月12日(土)、2024年度歯学部教育支援者学年別懇談会が開催された。また、当日は希望者による個別面談も行われた。教育支援者からは、普段の生活の様子や前期定期試験の結果、国家試験やCBT・OSCEに向けた課題と対策についてなど、学業全般に関する質問がなされた。クラス担任はそれぞれの現況を説明し、学習のアドバイスを行うなど、丁寧に対応した。

薬学部教育支援者懇談会の開催

7月29日(土)、薬学部4年生および6年生の教育支援者懇談会を開催された。4年生8名、6年生23名の教育支援者の方に来学いただき、各学年主任から、4月からの教育・学生指導の状況と共用試験や薬剤師国家試験合格に向けた課題と対策について説明が行われた。引き続き、教育支援者と学生の配属研究室教員との間で成績、就職などについて個別面談が行われた。教育支援者の皆様には、本学の教育、学生指導にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げる。

学長裁量経費による論文発表支援

研究成果を国際的な学術雑誌に発表することは、重要な研究活動であるとともに研究者の責務でもある。しかし、最近の円安傾向から論文掲載料は非常に高騰している。このような状況の中で、教員の国際誌への投稿を促進するために、学長裁量経費から論文掲載料を支給することを決定した。本学教員の国際誌掲載論文数は増加しているが、今回の支援策によってさらなる掲載論文数の増加と研究活動の質的向上が期待される。

大学院歯学研究科研究経過発表会の開催

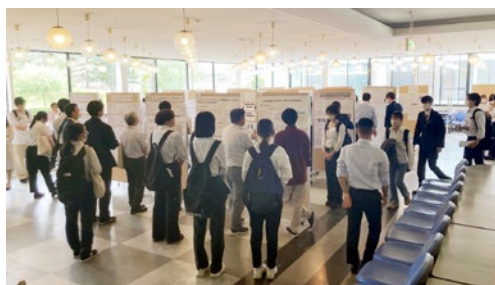
8月29日(木)、オンライン開催にて2024年度奥羽大学大学院歯学研究科研究経過発表会を行った。

今年度は、発表演題数が13演題で、その内容は基礎研究から臨床研究まで多岐にわたり、興味深い研究発表が多数行われた。今後、専攻科以外の大学院教員から提出された助言やアドバイスを参考に、来年度の学位取得に向けて大学院生の研究がより進展することを望みたい。

薬学部卒業研究中間発表会

6月22日(土)、薬学部6年生による卒業研究中間発表会が開催され、89名の学生がそれぞれ口頭発表またはポスター発表を行った。これから卒業研究を開始する薬学部の4年生からも多くの質問があり、活発な議論が行われていた。卒業研究は科学的根拠を基に問題を発見・解決する態

度とプロセスを修得することを目的として行われるもので、発表を終えた6年生は、今後これらの研究内容をまとめて卒業論文を完成させる。



ポスター発表会場の様子

薬学部卒業研究中間発表会における優秀発表賞

6月22日(土)、開催された「薬学部6年生による卒業研究中間発表会」において発表した89名の学生諸君の中から、伊藤辰希さん、菅野静輝さん、穴戸玲奈さん、鈴木彩矢さん、武田英怜奈さん、玉木瑠衣さん、福元江里子さんの7名が特に優れた発表を行ったとして優秀発表賞を授与され、押尾茂薬学部長より賞状と副賞が手渡された。



左から、玉木瑠衣さん、伊藤辰希さん、武田英怜奈さん、押尾茂薬学部長、福元江里子さん、穴戸玲奈さん、菅野静輝さん

薬剤師育成および人材確保に関する関連団体・医療機関との包括連携協定

薬学部では、地域社会の発展や人材育成、学術振興に寄与することを目的に、関連団体および医療機関と包括連携協定を結ぶ取り組みを進めている。これまで、郡山薬剤師会(8月9日付)、星総合病院(8月28日付)、寿泉堂総合病院(9月17日付)、医療生協わたり病院(9月20日付)と協定を締結し、さらに連携先を広げていく予定である。

今後、本学薬学部生の実務実習受け入れの円滑な実施、共同研究の促進、研修等の共同開催、大学教員と薬剤師との交流・情報交換、本学学生の修学および就職支援などを協力して行う予定である。

第80回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップへの参加

薬学部 村田 清志

7月14日(日)、7月15日(月)の2日間にわたり、福島県薬剤師会館にて、第80回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップに参加した。本ワークショップは、薬学部5年次の実務実習において、学生を薬局・病院に受け入れて指導できる「指導薬剤師」を養成するものである。実務経験5年以上の薬剤師と大学教員1名の計10名が1グループとなり、3グループに分かれてグループごとに7つの課題(①コンセンサス形成②問題点抽出③学習目標の設定④教育方法の作成⑤学習方略の作成⑥学習に有効な手法⑦問題点への対応方法)を制限時間内に議論、発表、評価する内容であった。2日間にわたる研修・討論を行い、修了書を受け取ることで、一般の薬剤師が指導薬剤師として登録できる権利を得ることができる。本ワークショップで学習する手法の一部は本ワークショップに限ったものではなく、PDCA(plan(計画)→do(実行)→check(評価)→action(改善))サイクルを継続的に行うことであり、学生が積極的に実習を行いたくなる手法(接し方を含む)を習得する内容であった。大学の教育におけるカリキュラム作成や学生との接し方などに通じるものとして、今後に役立たいと考えさせられるものであった。

科研費使用についての説明会の開催

科研費使用についての第1回説明会が、9月3日(火)に開催された。国民の税金が原資となる科研費を適切にルールに従って使用することは、研究者の責務である。本学では、科研費を支給されている者と新たに申請を行う者には、説明会への出席が義務付けられている。

説明会では、清浦学長から大学にとっての科研費の重要性と適切な使用が求められる理由に

ついて説明があった後、学事課長から科研費使用に際しての具体的な注意点について詳しい説明が行われた。その後、参加者が説明会の内容についての確認書類に署名して終了となった。なお、同日に出席できなかった教員に対しては、同様の説明会を9月4日(水)と11日(水)に開催した。



説明を熱心に聞く参加者たち

第1回SD研修会の開催

第1回SD研修会が、9月13日(金)17:00から17:30までZOOMを用いたオンラインで開催された。講師は小林初夫図書館長で、「震災復興の現状と今後の課題 -南相馬市の被災者の声から考える-」と題した講演であった。

講演では、全住民に避難指示が出された南相馬市小高区の住民から直接聞き取った声が紹介された。小林図書館長は、避難により世帯分離が起こったことと、地域コミュニティーが崩壊したことの2つが大きな問題であると捉えた。また、避難期間が長すぎたことや、医療・福祉・商業等の生活環境の整備が不十分なことから、避難指示が解除されても帰還しない人が多く、帰還した人のほとんどが高齢者であるという現状も大きな課題であると指摘した。帰還した人、しない人、それぞれに事情があり、抱えている悩みが多様であることや、復興の速度が遅くて先が見えないため希望が持てない、という人が多いことなど、テレビや新聞からの情報だけではわからない、さまざまな現状を知ることができた有意義な研修会であった。

第4回大学院特別セミナーの開催

第4回大学院特別セミナーが、9月27日(金)にオンライン形式で開催された。講師は徳島大学大学

院医歯薬学研究部口腔顎顔面矯正学分野の田中栄二教授で、「変形性顎関節症および特発性下顎頭吸収に対する歯科矯正学的対応」と題した講演であった。発症機序や発症原因が未だ不明な点が多い疾患に対しての歯科矯正学的アプローチについて、治療経験を基に詳しく解説いただいた。

疾患の発症機序の解明や治療に対する考え方や、大学院生と大学院教員にとって大変有意義な講演となった。

県中地域市町村歯科保健強化推進研修会での鈴木史彦教授による講演

8月27日(火)、福島県県中保健福祉事務所主催の2024年度県中地域市町村歯科保健強化推進研修会が鏡石町健康福祉センター「ほがらかん」にて開催され、講師として本学附属病院長の鈴木史彦教授が招聘された。同研修会には県中保健福祉事務所管内の介護施設職員、市町村歯科担当者、市町村高齢福祉担当者、市町村協力歯科衛生士36名が参加した。

演題は「支援者のためのオーラルフレイル対策」で、主催者からの要望により、本年4月に発表されたオーラルフレイルに関する3学会（日本老年医学会、日本老年歯科医学会、日本サルコペニア・フレイル学会）合同ステートメントについて、質問票を用いた評価方法に関する解説が行われた。また、オーラルフレイルと全身のフレイルや加齢関連疾患との関係やその予防方法、介護現場で役立つ摂食嚥下リハビリテーションについても話題となった。参加者はメモを取りながら、熱心に聴講していた。



講演の様子

猪苗代町教育委員会主催研修会での 佐藤歩講師による講義

猪苗代町教育委員会主催の研修会が8月23日(金)に猪苗代町立猪苗代小学校で開催され、歯学部心理学分野の佐藤歩講師が「第1回Q-Uテストの結果を受けての2学期以降の具体的な対応」を演題として講義を行った。前半は子どもたちの学校生活における満足度と意欲、さらに学級集団の状態を調べることができる心理テスト「Q-U」について、その構成と押さえて欲しいポイントが説明された。後半は心理テストの結果をもとに学級集団をアセスメントし、以後の学級経営の方針や、児童に対しての対応等を考える演習が行われた。



講義する佐藤講師

小林初夫図書館長が南相馬市で講演

南相馬市の成人大学が7月17日(木)に原町生涯学習センターで開催され、小林初夫図書館長が講演した。演題は「関東地方の方言」で、100名の市民が参加した。はじめに、東京のことばが共通語の基盤になっていることや、文末表現「べー」が使われていること、ほとんどが東京式アクセントであるが茨城県と栃木県は無型アクセントであることなど、関東地方の方言の特徴を概説してから、東京都と各県の方言について語彙と文法を中心に解説した。参加者は、「おこちる(落ちる)」や「しょっぱい(塩辛い)」などが東京方言であることに驚き、栃木県や茨城県の方言が福島県と似ているのは、県が隣接しているからであることに納得していた。また、神奈川

県の「うたてー(意気地がない)」や群馬県の「むぐず(くすぐる)」など、福島県とは同じ方言でも意味が全く違うことばに興味を示し、メモを取りながら熱心に聴講していた。



100名の市民が参加した成人大学

日本薬史学会の船山信次会長が来館

日本薬史学会の船山信次会長が本学図書館に8月2日(金)に来館し、小林克也主任の案内でバックナンバー室の蒲生明文庫を閲覧した。田村郡滝根町(現田村市)出身で高等小学校卒業後、独学で薬剤師免許を取得し、多くの婦人薬などを開発・製剤して地域医療に身を砕く一方、在野の科学者として生きた蒲生明の蔵書や日記はバックナンバー室に保管してあり、現在整理中のため非公開となっている。閲覧後、学長室で清浦祐学長と歓談した船山会長は、「蒲生明文庫は当時の薬剤師国家試験の状況や薬剤師の生活実態などがわかり、薬史学の視点から見ても貴重な資料、今後ぜひ研究発表なども検討してほしい」と蒲生明文庫を高く評価した。



蒲生明文庫で小林主任から説明を受ける船山会長

奥羽大NOW

読み聞かせボランティアが小学校で絵本の読み聞かせ

本学には、「読み聞かせボランティア」(代表: 本多真史講師 [歯学部日本語学分野])があることをご存じだろうか。歯学部学生の有志が集まり、自主的な活動として立ち上げたものである。歯科医師として必要なコミュニケーション能力を高め、幅広い年齢層の方々と交流を持つことができる貴重な学習の機会となる。

活動の第一歩として、福島県田村市にある船引小学校で絵本の読み聞かせを行った。この日は、歯学部の学生5名(亀屋明日香さん [4年]、中村愛さん [4年]、今村慎太郎さん [1年]、金子ニキータ愛奈さん [1年]、金田家治さん [1年])が特別支援学級の児童に「歯に関する絵本」を読み聞かせた。楽しく読み聞かせをしながら、歯磨きの重要性やそのコツなどを伝えた。



下学年(1年~3年)



上学年(4年~6年)

参加したメンバーの1人は「大変良い経験になった」と話し、他の1人は「今回の活動からたくさんのエネルギーをもらい、心の支えになった」と感想を述べていた。

本多講師は、医歯薬系の大学生がボランティア活動を行うことの有効性について、次の7点を挙げている。

1. 実践的なスキルの習得
2. コミュニティとのつながり
3. 倫理観の向上
4. チームワークの強化
5. 自己肯定感の向上
6. 履歴書や資格における強み
7. サービス学習の機会

ボランティア当日の様子は、9月17日発行の『福島民友』に掲載された。これに代表されるように、この読み聞かせボランティアは大きな反響を呼んでいる。医歯薬系大学生がボランティア活動に参加することは、学業の枠を超えた多くの利点があり、将来のキャリア形成に非常に有意義な経験となる。本多講師は「学部や在学学生・卒業生を問わず、この活動に共感し、一緒に歩んでくださる方が増えていくことを願っています」と述べていた。

なお、「読み聞かせボランティア」に関するお問い合わせは、次の通り。

住所: 〒963-8611

福島県郡山市富田町字三角堂31番1

奥羽大学歯学部 本多真史研究室

電話: 024-932-8931 (代表)

E-mail: m-honta@den.ohu-u.ac.jp



読み聞かせボランティアメンバーと船引駅にて

本多真史講師の記事が「朝日新聞」に掲載

歯学部日本語学分野の本多真史講師に関する記事が、8月2日付の「朝日新聞」に掲載された。

福島の中通りを抜ける東北本線と浜通りの常磐線では、それぞれ年代・地理別に単語の呼び方を調べた過去のデータが存在する。主体こそ違いますが、本多講師は、それらと比較可能なかたちで2000年から2003年にかけて単独で調査をした。震災後に改めてデータを洗い直し、北関東と福島を結ぶ鉄路が沿線方言に与えた影響を『東北本線・常磐線グロットグラム』（2024年3月31日発行）で明らかにした。本多講師は、「利便性のいい東北本線の方が共通語の伝わり方が活発で、方言の衰退が速い」と説明する。この背景には「開通・電化の時期や単線の有無で影響に差が出た」と結論づけた。

一方、調査した地域には、震災による県外避難でコミュニティーが消えた場所もある。本多講師は、「福島の言語体系は二度と戻りません。資料は貴重な『写真』です。地元でこういう方言があったんだよと、子どもたちに伝える材料にもなってほしい」と話していた。

玉井利代子教授らの記事が「日本歯科新聞」「福島民報」に掲載

歯学部口腔病態解析制御学講座の玉井利代子教授、渡部謙之講師、赤穂麗子講師、清浦有祐学長によって行われた「骨粗鬆症治療の副作用である骨髄炎を誘導するタンパク分子の発見」に関する記事が、5月21日発行の「日本歯科新聞」と6月19日発行の「福島民報」に掲載された。

骨粗鬆症治療薬の重大な副作用である顎骨の骨髄炎が起こると、日常の食事や会話が困難となる。玉井教授らは、骨粗鬆症治療薬のアレンドロネートが白血球のMyD88というタンパク質を増加させ、このMyD88の増加が炎症性サイトカインの産生を亢進することを発見した。また、アレンドロネートは、炎症性サイトカインの発現に寄与する因子「AP-1」を介することで顎骨骨髄炎や骨壊死を引き起こすことも明らかにした。

これらの研究成果は、以下の2つの国際的な学術雑誌に掲載された。

Journal of Oral Biosciences

66巻2号412頁-419頁

Experimental and Therapeutic Medicine

26巻6号 577 オンライン掲載

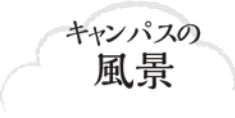
ちょっと寄り道! 木簡

奈良県橿原市の藤原京（694～710年）跡で出土した木簡が、九九の早見表だったことが奈良文化財研究所の調査によって判明した。

木簡は木の札に文字を記したもので、特に古代に作成されたものをいう。中国では「木牘」といい、竹（竹簡）が主に使われた。複数の札は紐で綴じ、これを策とか冊という。本を数える語の「冊」はここからきている。秦の始皇帝は1日に40kg相当の竹簡を決済したともいわれている。司馬遷の『史記』は竹に書かれたものだろうか。

奈良文化財研究所の「木簡データベース」では登録された木簡情報が検索できる。例えば「図書寮」をキーワードとして入力すると、写真を含む数点が得られる。役所の文書や、租税を運ぶ荷札、落書き、ラブレターまである。古代人の生活を伝える情報メディアだ。

(A)


 キャンパスの
風景

 百瀬の滝を登りなば 忽ち竜になりぬべき
わが身に似よや男子と 空に躍るや鯉のぼり

文科省唱歌

「鯉の滝登り」ということわざを聞いたことはあるだろうか。あまり馴染みがなく、使ったことがないという方もいるかもしれない。

これについて述べるには、「龍門の故事」を挙げなくてはならない。中国の黄河上流にある「龍門」という滝にまつわる伝説から、「登龍門（登竜門とも）」という言葉が誕生した。数多くの魚が、この滝を登ろうと試みたものの、鯉だけがその難所を乗り越え、龍へ変身したとされている。この故事から、「鯉の滝登り」という言葉も生まれ、立身出世の象徴としての地位が定着した。

鯉は長寿や繁栄の象徴とされ、日本では、端午の節句に飾られる「鯉のぼり」として知られている。周知の通り、鯉のぼりは子どもが健康に成長し、立派な人間に成長することを願ったものであり、鯉が滝を登り切る姿は、困難を乗り越えて努力する姿勢の象徴でもある。鯉のぼりは、その龍になってほしい教えであり、龍とは多くの人を救える人になってほしいとの願いを方便として表現しているとも考えられる。コロナ禍において、人々が不安に怯える中でも、科学や医学は進歩し続けた。現代は、神の祈りだけではなく、人が人を救うことができ、一人ひとりの行動で世界を変えられる時代である。他者を救える力があることは、この故事の教えに通じるであろう。

鯉の滝登りは、業界や職種を問わず、成功や出世を求める人々にとっての目標ともなっている。例えば、オーディションや新人賞は、著名な成功を解き放つ「登龍門」として、数多の夢を持つ人々が挑戦する。ビジネスシーンでも、「鯉の滝登りのように出世した」という表現は、急速な成長や成功を称える際に利用されることがある。

このように、「鯉の滝登り」はただの言葉ではなく、成功を目指す人々に希望と勇気を与える重要な概念である。緩やかな流れの中にいる鯉が急流を遡り、栄光の龍となる姿は、私たちにとってのインスピレーションであり、努力と忍耐をもって挑むことの必要性を教えてくれる。

国家試験の受験を控えた歯学部・薬学部の6年生、今、挑戦を続ける全ての人々よ。「鯉の滝登り」を意識して、困難に立ち向かう姿勢を忘れずに突き進んでほしい。本学中央棟側の日本庭園に棲む複数の鯉も、滝を登り、空に躍る日がいずれ来るかもしれない。

(文 本多真史)

文学部同窓会からのお知らせ

一郵便物の送り先住所変更について—

同窓会発足（1994年）以降、国会への郵便物送り先住所として、「〒963-8691 郡山郵便局 私書箱第40号 奥羽大学文学部同窓会事務局」を、郵便局と契約し利用を続けてきましたが、今年（2024年）3月をもちまして契約を終了いたしました。

このため4月より、皆様からの会への郵便物の送り先住所が変更となりましたのでお知

らせいたします。お間違えのないようお願い申し上げます。

【新しい送り先住所】

〒963-8611

福島県郡山市富田町字三角堂31番1

奥羽大学歯学部 本多真史研究室 宛

E-mail info@ohu-l.net

(本多真史：文学部日本語日本文学科8期生)

附属病院

自衛消防訓練

6月18日(火)、附属病院棟5階臨床講義室前ホールに参加者が集合し、今年度1回目の自衛消防訓練が実施された。1. 地震発生時の避難誘導、2. 火災発生時の通報連絡・119番のかけ方、3. 火災発生時の避難誘導、4. 救助袋による避難訓練の順で訓練が実施された。

その後1階玄関ホールに移動し、様々な消防設備の取り扱い説明を受けた後、参加者による消火訓練が実施された。今回の自衛消防訓練は通例よりも多い72名の参加があった。12月に実施される2回目でも多数の職員の参加を期待する。



放水訓練をする教職員

歯学部教授紹介



歯学部

口腔病態解析制御講座

教授 玉井 利代子

2023年4月1日付けで歯学部教授(口腔病態解析制御講座担当)を拝命いたしました。講義は口腔感染免疫学を担当し

ています。まず、この素晴らしい機会を与えてくださった奥羽大学の皆様に深く感謝申し上げます。

私は、微生物の菌体成分に対する宿主の免疫応答をテーマとして研究を続けています。私が大学院生の時に、長年不明であった内毒素の受容体がToll-like receptor 4 であることが発見さ

れました。それから約10年後、それが歯科医師国家試験に登場しました。また、博士課程修了後の22年間に、iPS細胞の発表、免疫チェックポイント阻害薬によるがん免疫療法の登場など免疫学の大きな進歩がありました。感染症学では、薬剤耐性微生物やパンデミックが問題となり、感染症は全世界での死亡原因の上位を占めています。変化の激しい免疫学と感染症学に対応するため、常に情報を取り入れ、講義内容を更新し伝えることの重要性を強く感じております。口腔感染免疫学は、主に第2学年と第3学年前期までに履修する科目ですが、この時期には他に複数の主要科目が開始され数多くの専門用語を覚えなければならず、学習者間で差が出てきます。すなわち、学習意欲と勉強に費やす時間の差が、成績に反映されます。そのことを念頭に置きつつ、即戦力となるような実践的な知識の習得を重視して、学生たちが自信を持って社会に羽ばたけるようサポートしてまいります。

卒後教育と研究については、歯学の進歩と社会の福祉ならびに文化の発展に貢献しうる研究者を養成することを目的とした大学院生の育成に努める所存です。研究者としてのプロフェッショナルリズムを身につけさせるために、大学院生の自主性を尊重しながら、歯学研究者としての教養、社会性、および倫理観を身につける講義並びに実習を行います。また、グローバルな視点を養成する教育も重要ですので、国際的な学会に参加する機会を大学院生に提供し、異なる文化や医療システムを理解することで、広い視野を持った医療人を育成したいと考えています。

最後になりますが、教育者としての責任を全うし、学生たちの成長と発展を全力で支えています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

同窓生のひろば

歯学部



平野 恭子 (歯学部25期生)

皆様こんにちは。奥羽大学歯学部2002年度卒の平野恭子です。

私は岐阜市で生まれ、高校卒業まで地元岐阜市で学んだ後、奥羽大学に進学し6年間の大学生活を郡山キャンパスで過ごしました。

卒業後は東京医科歯科大学摂食機能構築学分野専攻生として入局し、国領歯科医院等を経て地元の岐阜中央病院に10年間勤務後、2018年に平野デンタルクリニックを開業しました。歯科医師としての基礎を奥羽大学で学ばせていただいたことを心から感謝しています。

また、歯科医師以外の活動としては、2019年4月に行われた岐阜県議会議員選挙(岐阜市選挙区)で初当選を果たし、県議会議員として、現在2期目の任期を務めています。

歯科医師として日々の診療を通じて地域の皆様の日常的な口腔ケアに取り組む一方で、議員としては医療人の立場から、県内のどこに暮らしていても、必要な医療や福祉を誰でも受けられる健康で安心して暮らせるまちづくりに取り組んでいます。また、ご存知の方も多いと思いますが、現在、国において国民の口腔健康を維持し向上させることを目的とする「国民皆歯科健診の導入」が検討されています。私も歯科医師の知見を活かし、生涯にわたる切れ目のない歯科健診の受診機会の創出実現を目指し、岐阜県が全国に先駆けてそのモデルケースになれるように県議会でも求めるなど、歯科医師としての目線からの取り組みも進めています。

振り返ると、大学で過ごした6年間は、生涯の友人をつくる事ができた大切な時間だったと思います。当時の仲間とは今でも連絡を取り交流していますし、昨年は(私は仕事で参加できませんでしたが)東京で2002年度卒の同窓会も開かれました。いまでは、住む場所も環境も違いますが、少し話をすれば、同じ大学で過ごした時間に戻って思い出が共有できる友人ができたことは、私の一生の宝でもあります。

また仕事をするなかで、歯科医師会や歯科医

師連盟にも奥羽大学出身の先生方がいらっしゃることは、とても心強いです。

これからも奥羽大学で学んだことを生かし、またそのつながりを大切にしながら、歯科医師としても、また県議会議員としても頑張っていきたいと思います。



県議会で一般質問する平野さん

同窓生のひろば

薬学部



大槻 修平 (薬学部4期生)

2014年3月に卒業し、私生活では二児の父親になり仕事だけではなく育児にも毎日翻弄されています。学生時代は、友人や先生のご支援により、

勉強とアルバイトの二刀流を実現することができ充実した生活を送っていたことを懐かしく思います。昨年には、卒業後10年経過したため、同窓会長として同級生に連絡し、久しぶりに郡山の地で再会することが叶いました。私は現在、総合病院の門前薬局で管理薬剤師として勤務しております。小児薬物療法認定薬剤師の資格を根幹として、医療的ケア児相談員の活動を行うとともに、医師の指導の下での挿管行為、医療チューブ留置などの医療実技研修を修了し、医療的ケア児をサポートすることに力を注いでいます。今回は、小児薬物療法認定薬剤師に関して紹介させていただきます。小児薬物療法認定薬剤師は、2024年6月現在で936名が認定されており、福島県では18名の同志たちが活躍しています。小児は「大人の縮小版」ではなく、成長過程がダイナミックに変化するため、きめ細やかな対応が必要ですが、小児は自分で病状を伝

えることができないため、私たちのような医療者、保護者や家族が声を大きくして社会に伝えていく役割を求められています。今後も少子化が大きく加速する日本で、将来を担う子供たちを精一杯大切にしていきたいと思います。

人 事

<採用>

半沢 直子 看護師 病院医療部 7月1日付
曾我 睦美 看護師 病院医療部 *

<兼務>

福井 和徳 企画・広報課長 9月1日付

<定年>

鈴木 佐津喜 准看護師 病院医療部 6月2日付
国分 優子 事務職員 財務部 9月13日付
谷代 尚人 学事部長 学事部 9月27日付

<再雇用>

国分 優子 事務職員 財務部 9月14日付

<退職>

三瓶 恵美 助教 薬学部 7月31日付

最大6年間
学費
フルサポート
返納義務無し

給付型 特待生 制度

キミのやる気と実力を存分に活かしてほしい。
医療人としての人生をここから始めよう。
人間性豊かな歯科医師、薬剤師になるために。

歯学部

薬学部



奥羽大学 歯学部 薬学部

TEL. 024-932-9055 (歯学部)

TEL. 024-932-8995 (薬学部)

〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1
FAX. 024-933-7372 E-mail: info@ohu-u.ac.jp

奥羽大学 検索 www.ohu-u.ac.jp

奥羽大学 姉妹校 東北歯科専門学校

歯科衛生士科 歯科技工士科